

<2006>

- 「木偶の坊田吾作」
(農といのちを守る市民の会 会報 10 号「農といのち」)
※2019 年1月追記あり

「木偶の坊田吾作」

天草在 中井俊作

あれ（'95農民連合参院選）から11年。皆さん、お元気ですか？

私、まだ、“生きています”。21世紀を生きることは5割以上想定外でしたが……。ノストラダムスの予言を信じていた訳ではありません。20世紀の後半に生まれ育ってきた私の目には“人の世の有様はととも無事に新世紀を迎えられるものではない”と映り、そうあつてはならじとイザという時は体を張れる“政治家”として振る舞えるよう、直耕暮らしに励みつつ、そのことを公言してきた私でした。^{（た争態）}

私の目は暗かった。世の中は意外としぶとく、破局（地上の生命のかなりの割合が死に絶えるように至ることもなく新世紀に歩み出したのでした。そのこと自体は目出度いことなのですが、私自身は腹を決めて乗りこんだ特攻機が不時着してしまったような身の置き所のなさ……。

2001年秋の55才の誕生日は妻とかわした約束の“区切りの日”でした。この日までには我ママを通させて貰う＝身すぎ世すぎのお金を工面するために働かない＝自給自足に励み、お金の掛からない暮らしを心がければそれまでは（祖父の代に育林した杉、檜の売却代金の貯えで）何とかもつ＝経済的な事情で他から干渉されることなく世の中の在り方に思いを凝らすことができる（1972年、26才の時に立候補して落選した衆院選でその怖さは骨身に沁みました）＝日常時における精神の自由と非常時における行動の自由の確保（イザという時には家族をウッチョツて地球の裏側にまででも飛んで行ってしまふことを許せよ……と）。私の姿が標題が想起させるイメージと重なってきたでしょうか？ 今少し……。

約束の刻限が近づいた2000年末には、それまで私の社会的活動を財政面で支

えていた政治団体のお金が底を尽きました。72年の衆院選の際に地元後援会として設立したもので、年に50万円ほどの予算で主に書籍代、定期刊行誌・紙代、最小限の交通実費（東京往復は原則として青春18キップを使用）などをまかなくて来ていたのですが、選挙後は会員を募ることもせず、従って実収入は預金の利息だけ、収支報告作成事務は私（途中から妻）がしていました。選挙後、実は大穴が開いていた会計を立木を売却して埋めたのですが、20世紀の間中は活動できるようにと塩梅していたので世紀末に財布が空になる^のとは予定通りのことでした。2001年3月31日を期して解散届を提出。

5月には、JAL設立50周年とかで全線一律5,000円チケットが発売されるとの新聞記事を目にして早速手配。高校時代のクラス会幹事に声をかけを頼んで「中井の生前告別式」=この先もう顔を出さない、見納めにみんなに会いたいが会費は出せない、香典の先払いと思って勤弁、勤弁……。12名が集まってくれました。寝袋を肩に1週間余滞在、心にかかる方々に同じく生前告別のゴアイサツ。宿を甘え、食事を頂き、名残を惜しみ…カンパを包んで下さる方もおりました。帰途は地元・天草・手野運送の長距離トラック便の助手席に。万一の時には決して会社に迷惑をかけないからと社長には目をつむって貰い、荷物の積みおろしの手伝いをするからと運転手さんの許しを得て幾度この席に座ったことか。今日の「快適便利」生活を裏で支える過酷な24時間物流の現場の実態を体感~~もめました~~^{してきたものごした。}。居眠りしかけたハンドルに思わず手を伸ばしたこともありました。こちらも座り納めです。

9月はじめ、早期稲作の脱穀、貯蔵も終えたところで今一度上京することにしました。気になる用件が生じたこと、恩師の墓参り、5月に回り切れなかった方々の所へのゴアイサツ……。使い慣れた青春18キップの使い納め、24時間弱、11回乗り継いで上熊本駅に降りたのは期限間際の9月10日深夜。いつも寝袋を広げさせて貰う友人の仕事場まで歩いて30分。翌11日の昼前に帰宅、片付けなどを済ませて一息ついてTVのスイッチを入れたのは日も変わろうという刻限、さてもさてもBS-1のニュースのそこに目にしたのは世界貿易センターに突っ込む2機の旅客機の映像！でした。キナ臭い21世紀の幕明けです。

10月19日の誕生日、心苦しさを押し家族に申し出たのは「就労」の執行猶予。要するに我が儘を続けさせて欲しい、ということです。「どうに当てにしていまんでしたから、どうぞお好きに・・・」という妻。

こうして「木偶の坊田吾作」像に一層にじり寄ったのです。

その後

○今までどう過ごしていたか：イラクに行き損なって町会議員になってしまったこと。(今春、合併新市誕生で解放される)

○秋の還暦を前に今何を思い、この先どう過ごそうとしているか。

以下次号

明日から遅れた稲刈りです！

<2019.1月の追記>

195参院選、「泥付き百姓の国会へ！」を合言葉に、8地方区に各1名、全国区に2名の候補者を立てた「農民連合」。私は九州の世話人の一人として(東京に泥付き百姓がいたから)生れ育ちが東京で友人・知人もいたことから東京地方区で立候補することになり、田の草取りを終えた6月に上京。用意したのはポスター用の写真、作務衣に赤フンドシ・6月頃の2年。寝泊りは寝袋で兄の家に。選挙運動期間の17日間は国会前に座り込み、断食するつもりでした。ところが...!!

農民連合・東京(都内外で大豆トラスト運動など食・農連携を意図する人達が世話人の軸だった)にトラブル発生！分裂の事態に。丁度そのトラブル最中、私の方は大学時代の恩師の急逝に立ち会うこととなり、その対応には殺されて...一息ついた時には...既に新たな候補者で話が進んでいました。出られる人がいるら、と私は九州に戻り、選対事務を担います。

結果は皆遠く及びず。(全国区では17万余票)世話人にかかりの経済的負担となりました。改組団体「農民連合」の解散、東京では「農と川のちと守る市民の会」に。続く御縁で会報10号への寄稿とよした訳で「以下次号」は未だに棚上げの手！

●目の網膜に支障、視力が落ちて悪筆に拍車がかかりました。悪しからず。(車の免許と更新を控えました)